

2016年12月19日

事業所長の意見交換会

石油化学工業協会

経営層の保安への強化として、現場に最も近い経営層である事業所長・工場長の保安に関する第3回意見交換会を、安全工学会と共催で川崎にて下記の通り行った。

記

1. 日時 2016年12月19日(月) 14:00-17:00

2. 場所 川崎日航ホテル

3. 目的

川崎コンビナートにおいて保安の向上に日々努力している石油精製・化学系企業のトップにお集まりいただき、企業・業種の壁を越えて保安に関する意見交換を図ることで相互のレベルアップを図る。

4. 参加者

企業	旭化成(株)	室園康博製造所長
	東燃ゼネラル石油(株)	藤井文人工場長
	JXエネルギー(株)	川崎製造所 下村啓製造所長
	昭和電工(株)	海寶益典事業所長
	日本ゼオン(株)	川中孝文工場長

安全工学会 三宅先生(横浜国大)、平尾先生(東大)、湯本氏
石化協 成田保安・衛生委員長、澤井氏、岩間(記)

5. 内容

初めに、成田委員長の司会により、自己紹介、意見交換会の趣旨、進め方などについての説明が行われた。

行動目標におけるトップコミットメント／実施計画の策定に関する工場トップとしての取り組みについての意見交換から始まり、工場の安全活動、人材育成、新たな技術への取り組みなどに進んだ。

(1) トップコミットメント

トップのコミットメント、所長としてのコミットメントの浸透に、従来以上に傾注、特に従業員全員と直接会話することを重視。

- ・現場の声を聴くために課長抜きで現場巡視
- ・分かれている工場間で相互パトロールし、コミュニケーションの強化
- ・安全の基本はコミュニケーション、しかし質問が出ない・トップの考えの浸透などが課題

(2) 安全活動のあり方

工場では様々な安全活動に取り組んでいるが、一方で多忙感・やらされ感の原因ともなっている。活動の優先順位づけ・整理が大事。

- ・新たな活動を導入する際には、従来業務の再チェック・見直しを実施
- ・ヒヤリハットは放置すると出なくなるので、管理職の的確なフォローが必要、現場課長ではなく環安部門が確認するのも一つの方法

(3) 技術伝承・教育、女性活用

再雇用者をトレーニングの専任として配置する、勤務形態を工夫して教育時間を捻出するなど積極的に対応。

- ・再雇用者の活躍のためにはプラスアルファの賃金など処遇が必要
- ・5班2交替の変則勤務にて日勤を2班体制とし、教育時間を捻出（勤務時間当たりの通勤時間を減らす上でも、2交替制は有効）
- ・60歳代でも交替勤務可、年齢ではない
- ・パソコンによるセルフトレーニング（ST）で個々人の教育を充実、工場長も毎年STを受講
- ・川崎地区では積極的に女性の運転員を採用、しかし個社では少数派なのでコンビナートで女性運転員の懇談会を計画
- ・川崎市はコンビナート地区での託児所開設に支援、事業者も積極的に利用の方向

(4) 新たな技術への取り組み

新たな技術の利活用の取り組みが進められており、一部では従来にはない性能も確認。

- ・大型回転機器の診断技術、加熱炉におけるインテリジェントピグ、インテリジェントバルブ、ハンディーターミナル、赤外線式高感度ガス検知器などを検証・活用
- ・現場監視の強化の手段として有効だが予防技術としては今後の課題
- ・断熱材被覆下の配管外面腐食傾向について統計的検証を実施中、内面からの検査技術はロボットに期待

以上